

◎医用質量分析認定士取得者からの声

岡本 孝史 丸石製薬株式会社研究開発本部医薬研究部動態安全性グループ
医薬品開発における体内動態の評価では、生体試料中の薬物濃度を正確に定量できる質量分析技術は必須であり、日本医用マススペクトル学会に当該技術を資格認定される事は対外的にも研究成果の信頼性向上に役立つと考えられます。

森 照代 丸石製薬株式会社研究開発本部医薬研究部動態安全性グループ
質量分析は生体試料中の薬物濃度測定や構造解析等、医薬品開発では重要性が高いにも関わらず、技術の評価基準が明確ではありませんでした。医用質量分析認定士の資格取得はその技術及び結果の信頼性の証になるものと思います。

東山 智規 淀川キリスト教病院臨床検査課
2年前に本学会に入会し、医用質量分析認定士制度ができると聞いて、是非早めに取得したいと思い、第1回の認定試験を受験しました。自分の経験のあるMALDI-TOF MSを用いた微生物同定以外の利用法(構造異常タンパク質解析や薬物測定等)を学ぶことで、より広い視野を持つことができ、今後の応用方法を検討する上で、有意義な試験勉強となりました。

清宮 正徳 国際医療福祉大学成田保健医療学部医学検査学科
近年、ホルモンやビタミンなどの精密分析が質量分析により可能となるなど、質量分析技術の臨床化学検査への応用が始まっています。本資格を取得する過程で質量分析技術をしっかりと学ぶことは、将来の自分への投資に有用であると確信します。

山下 琢矢 神戸学院大学薬学部
現在、薬学部の学生教育へ積極的に医用質量分析を取り入れています。今は医用質量分析認定士が臨床現場等で活躍され、この資格が世間に周知されることが重要な時期だと思います。将来的には本資格所有者のみが実施可能な業務等が策定され、社会的価値が向上することを期待します。

越智 拓 藤田保健衛生大学医学部法医学講座
大学での研究活動では、質量分析を様々な領域で利用しますが、医用質量分析認定士として、質量分析に関する幅広い知識と技術を身につけることで、自分の手技に自信を持てるとともに、他の研究者に対し、説得力のあるデータを提示することができると思います。また法医学の領域では、法医解剖に伴う薬毒物検査に質量分析を応用していますが、その鑑定結果は裁判上の証拠として使用されることもあり、誤りが許されません。そのため、医用質量分析認定士として、質量分析に対する幅広い知識や技術を理解していることは必須となると思います。

長谷川 有紀 島根大学医学部小児科
私は小児科医ですが、GC/MSを用いて尿中有機酸分析を行い、代謝異常症の生化学診断に応用してきました。医用質量分析認定士を取得する過程で、質量分析の基礎知識が整理でき、質量分析の応用拡大、自分の専門分野以外の様々な質量分析技術や応用、あるいは最近の新技術の進歩が理解でき、知識を深めることができました。



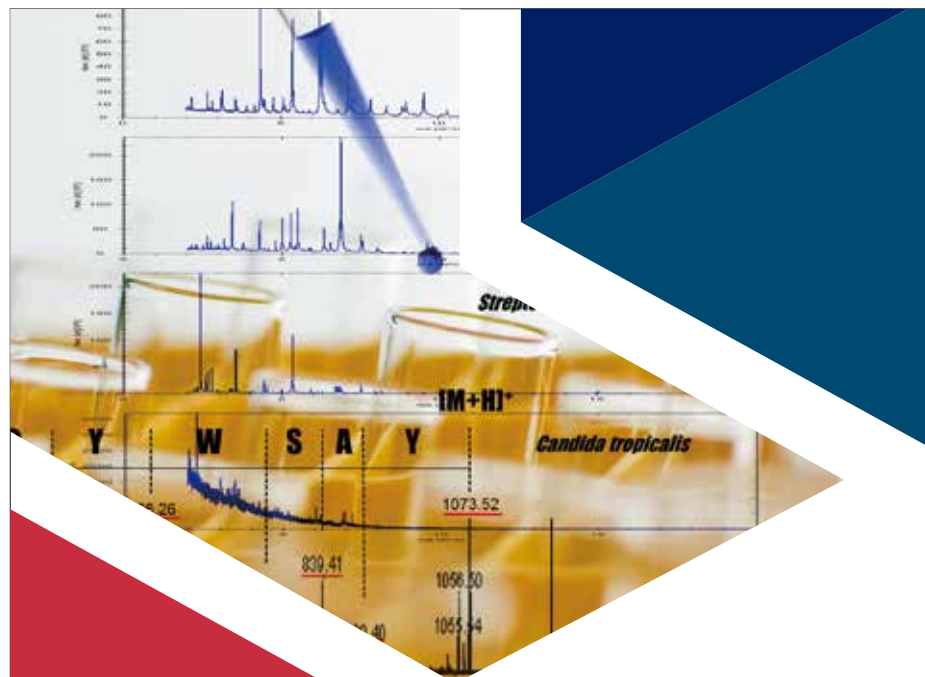
**一般社団法人 日本医用マススペクトル学会認定
医用質量分析認定士制度のご案内**



医用質量分析認定士制度に関するお問い合わせ

一般社団法人 日本医用マススペクトル学会事務局
〒491-0938 愛知県一宮市日光町6 修文大学内
E-mail: jsbms.office@gmail.com URL: <http://www.jsbms.jp/>

研究・検査に質量分析計(MS)を使用している研究者・教育者・技術者・医師の方々、学生・大学院生の皆さん、**医用質量分析認定士**の資格を取得しませんか。日本医用マススペクトル学会では、皆さんのためにこの資格の認定制度を有しています。



◎医用質量分析認定士制度における認定要件の骨子

1. 日本医用マススペクトル学会員であること。
2. 講習会を受講し、同時に行われる試験に合格すること。

合格後、医用質量分析認定士申請に従って、所定の申請書類を整え申請を行う。認定期間は5年とし、更新制となっている。詳しくは一般社団法人日本医用マススペクトル学会**医用質量分析認定士**規程を参照すること。

一般社団法人日本医用マススペクトル学会の目標

最近の質量分析技術の進歩は、実用的なプロテオーム・メタボローム解析を可能にし、質量分析はいまや分子生物学、生化学など医学関連科学の研究に必須の手段となっています。本会は、新たに開発された質量分析技術の知識を普及させ、医学関連科学への応用研究を促進することを目指します。

◎医用質量分析認定士とは？

質量分析計のソフトイオン化法の開発により、質量分析(MS)法が多種多様な分野で利用されるようになってきました。それに呼応してMS担当者は、今後その専門職としての資質が求められるでしょう。例えば、医療分野への応用に関して、下記に示すようにその分析対象が低分子～高分子量物質=薬物～ペプチド・タンパク質に到るまで広範囲であり、分析ツールとして益々その重要性が増しています。

現在、MSの医療応用としては、

1. 先天代謝異常のスクリーニングと確定診断
2. 医薬品のTDM、薬物中毒診断
3. イムノアッセイに代わる臨床化学検査
4. MALDI-TOF-MSによる微生物同定

などがあり、今後も適用対象が増えていくものと思われます。

したがって、分析担当者は、MS専門職としてMS解析技術と共にMSの原理、イオン化法、MSスペクトルの解釈等基本的MS概念を理解していることが重要であり、更に担当者が共通基盤をもつ必要があります。そこで、①質量分析技術の基礎習得した上で、更に医用質量分析を専門に従事することができる人材の育成、②臨床検査法としての質量分析技術の普及とその標準化、を目的として、平成25年度から一般社団法人日本医用マススペクトル学会において、**医用質量分析認定士制度**がスタートしました。

◎医用質量分析認定士を取得することのメリット

臨床現場で質量分析技術を活用している方々

- ・習得した質量分析技術の基本的知識を日頃の業務に活かすことができる。
- ・所属施設における質量分析コンサルタント役を果たせる。
- ・本人のキャリアアップにつながる。

企業の方々

- ・質量分析技術の基礎的事項と多岐にわたる質量分析計の特徴を知るものとして、その発言内容に責任が伴うと同時に説得力が増すようになる。
- ・社内における本人のアピールやキャリアアップにつながる。
- ・社内分析や受託分析を行っている人材のクオリティについて、外部の保証がつくことで社外に分析のクオリティや商品の品質のクオリティをアピールできる。

卒業予定の学生の皆さん

- ・近い将来、臨床検査の主役になると予想される質量分析技術の基礎的知識を有するものとしてアピールできる。
- ・質量分析技術の基礎的知識を有する内容を就職活動に活かせられる。

◎医用質量分析認定士234名が認定されました

平成25年に第1回**医用質量分析認定士**試験を実施して以来、今年で第4回の認定士試験を行ってきました。その結果、一般社団法人日本医用マススペクトル学会では、平成28年10月現在234名を**医用質量分析認定士**として認定しました。これまで認定士を取得された方の職域分野内訳を以下に記します。

・病院/臨床検査関連	40.4%	・大学教育関連	34.0%
・検査会社関連	13.2%	・製薬会社	2.6%
・その他	9.8%		

